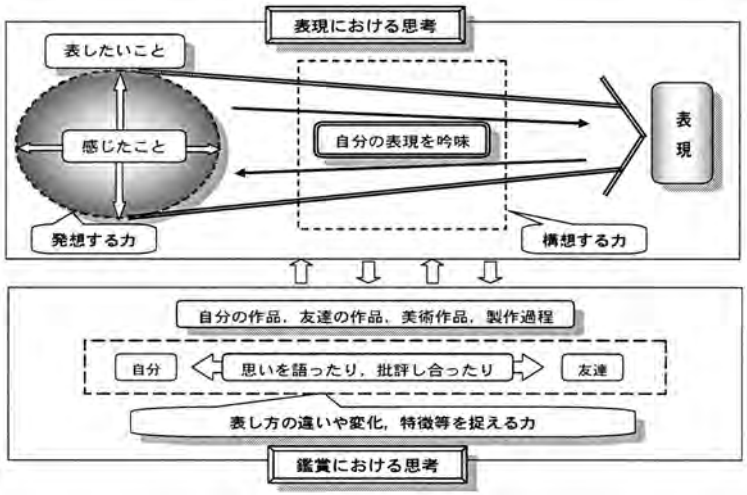
図 画 工 作 科

1　育成したい「思考力」

a　感じたことを基に，多様な観点でイメージを深めたりアイデアを広げたりし（発想する），表したいことを実現できるように，表現方法を吟味する（構想する）力
b　感じたことを友達と話し合う等して，表し方の違いや変化，特徴等を捉える力

図画工作科の「表現」においては，「どんな形にしようかな」「こんな形にもできないかな」等の発想する力と，「どのような表現方法を選べば，自分の思いを表せるかな」という構想する力が思考の中心となる。

一方「鑑賞」においては，友達と交流しながら，形や色等について「友達の表し方とどこが違うのか」「表し方がどのように変わったのか」「なぜそのように感じるのか」等，表し方の違いや変化，特徴を捉える力が思考の中心となる。



a「表現」における思考力

①　感じたことを基に多様な観点でイメージを深める・アイデアを広げる（発想する）力

○　イメージを深める力

イメージを深める力とは，表したいイメージを具体的に思い描く力のことである。例えば，花の絵を描くとする。初めは概念的で記号のような花（例：チューリップ→ ）を思い浮かべる場合が多い。その際，その花がいつ，どんなところに咲くのかといった「時間的」「空間的」な観点をもつことで，花やその周りの様子がより具体的になる。そのことによって，だれもが思い描く一般的な花から，自分が表したい，感性豊かに思い描いた固有の花になるのである。以下にその実践例を紹介する。

第５学年「どんなカンジ？漢字アレンジ」

【本題材で育成したい「思考力」】
選んだ漢字をアレンジするために，その漢字のもつイメージを深める力

本題材では，感情を表す漢字の中からアレンジしたい漢字を選んでデザイン文字をつくっていった。しかし，特に抽象的な漢字に対しては具体的なイメージをもちにくく，文字をどのように変えていけばよいのかが思いつきにくい。例えば「快」ならば，「気持ちいい」「すっきり」としか捉えることができず，形や色も曖昧にしか思い浮かばないのである。そのイメージを経験とつないで語らせることで，「気持ちがいいのは朝起きたときの布団の中です。」「暖かい部屋で本を読むときです。」等の反応が出た。このように，「朝起きたとき」「本を読むとき」等の「時間」や，「布団の中」「暖かい部屋」等の「空間」の観点から，「快」のイメージを具体的に思い描き，アレンジにつながる手がかりを見つけることが，イメージを深める力である。

○　アイデアを広げる力

アイデアを広げる力とは，感性を働かせながら，描く対象を形や色等に関わる観点から見つめ直し，いろいろな表し方を見いだす力である。例えば，無造作に紙をちぎる。すると，その紙の形が動物に見えることがある。さらに，紙を斜めに置いたり裏返したりした時，全く別のものに見えてくる。上記の花の例では，「花びらの色を変えてみたら」「大きくしてみたら」「向きを変えてみたら」等の観点から花を見つめ直すことで，いろいろな花の表し方を見いだしていくのである。以下にその実践例を紹介する。

第１学年「破いた紙が大変身　ーかたちからうまれたよー」

【本題材で育成したい「思考力」】
自由に破いた一枚の紙を，違う方向から見たり，全体・部分として見たりして感じたことを基に，表したいことのアイデアを広げる力

本題材では，自由に破いた紙を見て感じたことを基に，見立て遊びから表したいことを発想していった。紙を回したり裏返したりして違う方向から見ると形の見え方が変わることや，「鳥」「帽子」等と形をものの全体として見る見方だけでなく「人の鼻」「恐竜の牙」等とものの一部分として見る見方があることに気付いた。このように，一つの形に対して多様な見方をすることで，いろいろな表し方を見いだしていくことがアイデアを広げる力である。

【一部分として見る】

②　表したいことを実現できるように，表現方法を吟味する（構想する）力

発想したことから，表現したいことを決め，表現方法を試しながら表したいことを実現できるようにしていく力である。「○○の色より，□□の色を使った方が表したいことに合うよ。」等と，表したいことと材料や場所等の特徴，構成の美しさや視覚的な効果等を照らし合わせながら表現方法を取捨選択していくことで，表したいことが実現できるようになるのである。以下にその実践例を紹介する。

第１学年「想像を膨らませて描こう　ーうつしたかたちからー」

【本題材で育成したい「思考力」】
版で写した形や色から想像を膨らませ，自分の表したいことを表すために，版の向きや並べ方，配置，写す数，色の組み合わせ等の表現方法を吟味する力

身の回りにあるものを版にし，写した形や色から自分の表したい生き物を考えた。そして，版の向きや並べ方等の表現方法を工夫し，自分の表したい生き物に合うように版画で表した。その後，自分の表現方法の工夫を作品に重ねた透明シートにことばで書き，友達と伝え合うことで，自分がしていない新しい工夫を見つけていった。それらの中から，自分の思いに合った工夫を取捨選択し，表していくことが表現方法を吟味する力である。

【工夫をことばで書く】

ｂ「鑑賞」における思考力

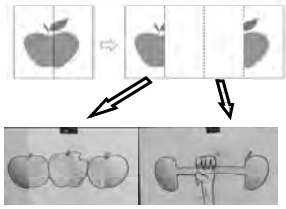
○　感じたことを友達と話し合う等して，表し方の違いや変化，特徴等を捉える力

鑑賞において，子どもたちは，自分の作品を改めて見直したり，友達の作品や美術作品，製作過程を見たりして，さまざまな感じ方をする。それについてつぶやいたり友達と話し合ったりする際，形や色，材料，用具の使い方とつないで話し合うことで，表し方の違いや変化，特徴を捉える力が育つと考える。そのためには，「この部分に△△色を使っているから，…な感じがよく表れているね。」「ここを大きくかいたのは，きっと…を表したかったからだ。」のように，形や色等に関わることばを介しての話し合いが必要になる。以下にその実践例を紹介する。

第４学年「開くとあれあれ？おりたたみ絵本」

【本題材で育成したい「思考力」】
友達と自分の表し方を比較して感じたことを基に，その違いや特徴を捉える力

本題材では，右図のように画用紙を開いたとき，りんごの間に現れる形を工夫していった。途中，鑑賞の時間を設け，数枚の作例について話し合っていた。すると，「左はりんごの数が増えているが，変化はあまりない。」「右のように，りんごではなく手をかいてダンベルに見えるようにした方が，驚きが大きい。」という反応が表出された。このように，話し合いを通して感じたことを具体的に形やその数等とつなぐことが，違いや特徴を捉える力である。


【作例を比較】